



経験の共有・交流

はるかな友に心寄せて 南三陸——チリ 青少年音楽・詩作交流

ワークショップ	日本	2012年10月—2013年2月	宮城県志津川高等学校
	チリ	2012年10月—2013年2月	ガブリエラ・ミストラル校

東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県南三陸町と2010年2月のチリ大地震で被災したコンステイトゥション市。ふたつの町に住む高校生達が被災経験を振り返ってつくった詩と物語を交換しました。詩と物語は歌となり太平洋を横断した交流が生まれました。

南三陸町とチリ共和国との友好関係は1960年のチリ地震にさかのぼります。この時、チリ地震によって引き起こされた津波は太平洋を越えて三陸沿岸に到達し、宮城県南三陸町、岩手県大船渡市等は大きな被害に見舞われました。地震津波から復興を遂げた両国友好の印として、1991年、チリから南三陸町にモアイ像のレプリカが贈られるなど、チリ共和国と南三陸町は交流を続けてきました。

このような背景の下、東日本大震災を経験した南三陸町志津川高校の生徒達と、2010年のチリ大地震を経験したコンステイトゥション市ガブリエラ・ミストラル校の生徒達が、日本とチリ両国のアーティストによるワークショップを重ね、自分達の国で起きた地震や津波の体験を振り返り、太平洋の彼方で同じ境遇にある同世代に思いをはせながら、それぞれの気持ちや考えを詩や物語に表現しました。詩や物語は、両国の音楽家の力を借りて歌となり、海の彼方で同じような経験をした友への励ましのメッセージとして、両国の生徒達の間で交換されました。

公演	チリ	2013年2月27日	チリ大地震3周年追悼コンサート	マウレ河畔の特設ステージ（コンステイトゥション）
		2013年3月1日		カラビネロス劇場（サンティアゴ）
日本	日本	2013年3月11日	東日本大震災2周年南三陸町追悼式	南三陸町総合体育館
		2013年3月12日	日本—チリ交流コンサート	南三陸町総合体育館文化交流ホール
		2013年3月15日	東京での報告会&ミニコンサート	国際交流基金本部

日本とチリで行われたワークショップ

2012年秋、日本とチリ、それぞれの地で、高校生達のワークショップが行われました。

ガブリエラ・ミストラル校3年B組の生徒達は、2010年2月27日未明に発生したチリ大地震を振り返り、地元の作家の指導を受けながら、自分自身の体験や町の人びとへの聞き取りに基づく7編の物語を創作しました。チリの国民的歌手ケコ・ユンゲ氏は、ガブリエラ・ミストラル校の生徒達の物語に込められたメッセージを汲み取り、楽曲「太陽より遠くへ」を作詞作曲し、生徒達とともにその曲の練習を重ねました。

一方、志津川高校2年4組の生徒達も、震災からこれまでの自分自身の生活を振り返り、グループ作業を通じて言葉を出し合いながら被災から1年半の心象風景の移り変わりを、一編の詩に表現しました。また音符の並べ替えゲームを通じて詩を音符に乗せる作業を行い、アーティストの協力によって組曲「はるかな友に心寄せて」が作曲されました。さらに生徒達は、東日本大震災2周年追悼式での合唱に向けて完成した曲の練習を始めました。同校の生徒による合唱は、チリの被災地で行われる追悼式典でも紹介するため、映像の収録も行われました。ガブリエラ・ミストラル校で創作された物語は志津川高校へ、志津川高校で創作された詩はガブリエラ・ミストラル校へと贈



【上】志津川高校で音符の並べ替えゲームを行う生徒達 写真提供：吉川由美
【前頁】ガブリエラ・ミストラル校の生徒は南三陸町の被災状況について説明を受けた

宮城県志津川高等学校

宮城県本吉郡南三陸町に所在する県立高校。普通科2年4組の生徒38名が東日本大震災以降の生活を振り返り、大津波の被害から少しずつ立ち上がっていくようすを描いた6つの章からなる詩を、クラス全員で創作した。

ガブリエラ・ミストラル校

チリ中部マウレ州タルカ島の港町コンステイトゥション市に所在する高校。3年B組の生徒45名が、地元の作家、フアン・ムニョス氏によるワークショップを通して7編の物語を創作した。

られ、それぞれの学校でお互いの作品を鑑賞し、太平洋の向こうで被災した同世代の仲間思いをはせながら、被災体験を共有する取り組みもあわせて行われました。

ふたつの追悼式典で披露されたふたつの歌

日本とチリ、ふたつの国で完成した歌は両国で復興支援に取り組むアーティストに託され、それぞれの国の追悼式で披露されました。

チリ大地震から3年目を迎える2013年2月27日深夜、津波により多数の犠牲者を出したオレゴ島を望むマウレ河畔の特設屋外ステージで、チリ大地震3周年追悼コンサートが開催されました。追悼式前日には、日本側の協力アーティストである民謡ユニット法笙組とギタリストの佐藤正隆氏がコーディネーターとともに志津川高校の心のメッセンジャーとしてガブリエラ・ミストラル校を訪れ、南三陸町の被災状況や東北の民謡の魅力を紹介する機会も設けられました。追悼コンサートでは、約1,500人の観衆を前に、舞台上の大スクリーンで南三陸町の被災状況や志津川高校の生徒達のメッセージを紹介。日本側の協力アーティストが志津川高校の生徒達の歌声とともに「はるかな友に心寄せて」を披露しました。また、ガブリエラ・ミストラル校の生徒有志がケコ・ユンゲ氏とともに「太陽より遠くへ」を歌いました。当日は、ピネラ大統領もコンステイトゥションを訪れ、コ

共催	在チリ日本国大使館、「挑戦、立ち上がろうチリ」(Desafio Levantemos Chile)
協力	南三陸町、宮城県志津川高等学校、ダ・ハ プランニング・ワーク、仙台市民交響楽団、トヨタ自動車、「トヨタ・子どもとアーティストの出会い」仙台・宮城実行委員会、南三陸ホテル観洋、南三陸町観光協会、南三陸町国際交流協会、ENVISI、福武財団、メディア・ゲート・ジャパン、アメリカン航空、セルバンテス文化センター東京、コンステイトゥション市、ガブリエラ・ミストラル校、チリ軍警察文化事業団、チリ銀行、ARAUCO、Cabanas Playa El Cable
後援	駐日チリ共和国大使館

ンサートの模様は地元テレビ局を通じてライブ中継されたほか、インターネットを通じて全世界に発信されました。

3月1日には首都サンティアゴで、同じ形式のコンサートが開催され、ミストラル校の代表生徒2名らが共演。500名以上の観客が日智両国の震災復興を願いました。チリでのふたつのコンサートには、チリ大地震直後、生存者救出と被災地の治安維持にあたったチリ軍警察の音楽隊が共演し、チリの主要メディアでも多数とりあげられました。

一方、東日本大震災から2年となる2013年3月11日、南三陸町で開かれた東日本大震災2周年追悼式では、ガブリエラ・ミストラル校の心のメッセンジャーとしてケコ・ユンゲ氏が2名のミュージシャンとともにチリから来日し、式典に参列しました。約1,500人の参列者が見守る中、志津川高校の生徒達が「はるかな友に心寄せて」を日智両国のアーティストと共に献歌しました。この演奏には仙台市民交響楽団のメンバー有志も伴奏に加わりました。また、会場に設けられた巨大スクリーンではチリの被災状況やミストラル校の生徒達のメッセージを紹介し、ユンゲ氏が「太陽より遠くへ」を献歌しました。

翌3月12日には、南三陸町の復興を祈念し、日本とチリ両国の音楽家が南三陸町の高校生有志と共に交流コンサートを行いました。一連の事業を通じて、太平洋を越えた被災地同士が経験やビジョンを共有し、励まし合い支え合いながら、復興に向かつて歩む友好を結ぶ機会となりました。



震災から2年にあたる2013年3月11日、南三陸町での追悼式典で「はるかな友に心寄せて」を合唱する志津川高校の生徒達



2013年3月1日、チリのサンティアゴで開かれた、チリ大地震から3周年のコンサートでは、ケコ・ユンゲ氏他、チリのミュージシャンとともに、日本からチリを訪ねた日本の協力アーティストが、スクリーン上の志津川高校の生徒達と共に楽曲を披露した



東京で行われた本事業の報告会&ミニコンサートでは、来日したユンゲ氏と日本のミュージシャンが共演。ふたつの国の高校生達の詩と物語から完成したふたつの楽曲が披露された



2013年3月12日、南三陸町での交流コンサートでは、ユンゲ氏と日本の協力ミュージシャン、志津川高校生徒有志が共演した

この頁の写真すべて 撮影：相川健一

法笙組

福島県須賀川市の民謡家、小湊法笙(民謡小湊流2代目家元)と、美鶴、美和、昭尚からなる家族ユニット。志津川高校のワークショップで生徒がつくった詩の一部を邦楽のスタイルで編曲した。

佐藤正隆

ギタリスト。1988年、第1回仙台国際ギターフェスティバル、ジュニアギターコンクールで優勝、仙台市長賞を受賞。東日本大震災以降、さまざまな追悼集会で演奏を行う。志津川高校のワークショップで生徒達が紡ぎ出したメロディーから作曲を担当。

吉川由美

プロデューサー・演出家。東北六魂祭のパレード演出などを手がける。八戸ポータルミュージアム「はっち」文化創造事業ディレクター、宮城大学非常勤講師。南三陸町でアートを通じた復興に取り組む。南三陸町復興応援大使。

ケコ・ユンゲ/ Keko Yunge

シンガーソングライター。1984年のデビュー以来、数々のヒット曲を発表したチリの国民的歌手。チリ大地震後、音楽を通じた社会貢献活動を本格的に開始し、被災地復興支援に精力的に取り組む。

エクトル“ティト”ペゾア/ Hector "Tito" Pezoa

ギタリスト。1970年に活動を開始。チリ音楽界への貢献から、チリ教育省の表彰を受ける。1999年、チリ音楽著作権協会から最優秀パフォーマー賞を受賞。ケコ・ユンゲ氏とは過去15年にわたり共演を重ねる。

ローラ・ブライヤー/ Laura Bryer

ヴァイオリニスト。英国、スペインで活躍したのち、2010年以降、活動の拠点をチリに移す。アンドレス・ペーゾ大学カメラータの一員として、またチリ交響楽団の第2ヴァイオリン奏者として活動。

はるかな友に心寄せて

～宮城県志津川高校2年4組の38名が創作した詩より～

今は暗闇の道
でもきっといつか光は差し込む
きっといつか心の底から
笑える時が来る

やっぱり海がきれいだと
ずっと忘れない
一緒に歩いたこと
一緒に笑ったこと

つらいけど
ひまわりのように
空にまっすぐ伸びていこう
上を向いて歩いて行こう
一輪の花に
ひとつひとつの花びらがあるように
私たちはひとりじゃない
一緒に未来を信じて歩いて行こう

一生懸命生きていれば
必ず光は見えるもの
今ある生命を大切に
We never give up!

ひとりじゃないよ
ぼくたちはつながっている
支え合って一歩ずつ
進んで行こう
世界はつながっている

がんばった分だけ
楽しくなれる
転んだ分だけ
強くなれる

太陽より遠くへ

作詞作曲 ケコ・ユンゲ
朗読文 カブリエラ・ミストラル校3年B組の生徒たちの物語より

El mar viene y va,
como las olas de la vida
Y yo mi amor te fui a buscar,
mucho mas alla del sol.

海は行き来する
人生の波のように
そして私は愛する
君を探しに行った
太陽より遠くへ

〔朗読〕
午前3時34分、マグニチュード8.8の地震がチリの中南部を襲った。そこで世界が終わってしまうのかと、私は思った。地震からおよそ20分後、海辺から非常に大きな波がこちらに向かって来るのが見えた。行く手にあるものを破壊しながら、海が押し寄せて来ると巨大な音と大勢の人々の叫び声が聞こえて来た。その後、静けさが町を支配した。みな茫然自失、身動きが取れない状況だった。

瓦礫へと変わり果てた、私の美しい町を眺めた。人々の夢が地面に散らばっていた。失った全てのものをどのように再建すれば良いのだろうか？ どうすれば人々の心を再び希望に満ちた状態に戻し、新しい生活を始めることができるのだろうか？

その日は、夜明けが遅かった。太陽の最初の光がようやく輝いたとき新しい一日の始まりとともに私の成長を見守ったコンステイトゥシオンの町を再建するための希望も同時に訪れたことに気付いた。

参加者の声

志津川高校2年4組生徒からは……

詩にはみんなの町に対する思いや復興に対する思いが詰まっている。自分達が思っていること、感じたことを率直に表現できた。

この歌を通して、町の復興やチリとの交流につなげられたらいいと思う。私達のような若い人達が頑張る力を与えることも改めて必要だと思った。

たくさんの人に支えられていると思った。人と人との繋がりが何よりも強く大切だと思った。言葉が伝わらなくても、心を通わせることができた。

この震災で多くのものを失ったが、そのかわり多くの体験をし、色々な国と交流することができた。場所が遠くても、心はつながっていると思い、勇気もらった。

ガブリエラ・ミストラル校からは……

志津川高校の生徒達の詩を読み、感動した。私達が置かれている境遇、地震と津波に被災した状況が似通っていることが良く分かった。〔生徒〕

南三陸町の写真を見て、コンステイトゥシオンの風景ととてもよく似ていることに気付いた。太平洋を越えて、同世代の日本の友達との共同プロジェクトが出来ることを幸せに思う。〔生徒〕

テレビで日本そして、津波の映像を見て衝撃を受けた。震災時の日本人の冷静な立ち振る舞いには感動を覚えた。そうした日本人の精神性、日本文化にも敬意をもっている。南三陸町も漁業が盛んな町だと聞いているが、似通った境遇の町同士、同じプロジェクトを共有できていることを感謝している。〔担任教師〕

交流コンサートの来場者からは……

チリと日本の人と人、国と国のつながりを再認識しました。

音楽は言葉を超えて伝わってくるものがある。日本・チリ両国の歌も音楽も素晴らしい、邦楽とチリの音楽の組み合わせが印象的。この町で暮らしていこうと思いました。

ケコ・ユンゲ氏から

志津川高校の生徒の皆さんがつくった詩には、震災後のさまざまな気持ち、出来事、状況、時間軸に沿った物事の変化などが、見事に表現されています。驚くべきことに、皆さんの詩を読んで、チリで津波が起きたときに私自身が抱いた感情が蘇ってきました。皆さんの詩に描かれた出来事、環境、体験は、私達がチリで経験したことと全く同じ現実を反映しています。これが、このプロジェクトの素晴らしいところです。

こんなにも遠く離れた場所にも居ながらも、こんなにも似通った感情や体験をもつ日本とチリの若い皆さんをつなぐことが出来ました。日本で発生した未曾有の自然災害に対する自らの気持ちを心から表現した皆さんに多大なる敬意を表します。



撮影：相川健一